

沖縄と戦争法案のたたかいは一体

辺野古国会包囲 参加者の声



「辺野古新基地NO」とプラカードを掲げて抗議の声を上げる人たち12日、国会正門前

「辺野古新基地NO」の文字が国会を取り囲みました。12日、国会周辺でとりくまれた「止めよう！ 辺野古埋立て9・12国会包囲」。ポーリング調査再開という民意無視の安倍政権への怒りと戦争法案廃案への決意に つつまれました。

沖縄・島ぐるみ会議の玉城義和事務局長が「沖縄のたたかいは戦争法案のたたかいは

根源的に一体のたたかいです。新しい日本をつくる運動に沖縄が参加して、たたかいの核を作ろう」と訴えると声援と共感の大きな拍手が起こります。

夏が戻ったかのよう な日差しと暑さのなか、コールを繰り返す参加者。

東京都国分寺市の鯉淵勝也さん(55)は「安倍首相は辺野古新基地を『抑止力のため』と

いいますが、実際はアメリカの戦略のためです。国民・県民の声を無視する政権は、私たちが声をあげて、退陣に追い込むしかありません」。

板橋区の三枝タキさん(62)は「安倍政権は」なんでもかんでもアメリカいいなりです。戦争法案でも辺野古新基地でも安倍首相は国民の声を聞こうとしない。一日も早く辞

めさせるためにも、行ければなりません。地域で行動を広げていきたい」

足立区の湯川一俊さん(66)は、8月30日

の「国会前10万人行動」に参加しました。

昨年には沖縄に行き、

辺野古ゲート前や戦跡を訪ねたと言います。

「沖縄の運動と本土の運動が連帯していると実感しました。さまざま運動で政権を包囲し、打倒につなげな

ければなりません。地域で行動を広げていきたい」

杉並区からマウンテンバイクで1時間ほどかけて駆けつけた男性

(65)は「沖縄の土地を奪って置いて、返してほしければ代わりの土地をよこせ」なんておかしい。国民の声を聞かない首相はもう辞めさせるしかない」と話しました。

9/13 旗